

『教育』 ～ 『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹を追求する』 ～

2024 年 1 月 18 日、ルーテル学院大学での講義『現代生命科学』に赴いた。教科書『カラーで学べる病理学』を用いて、第 9 章『老化と老年病』 & 第 10 章『新生児の病理』を音読しながら進めた。質問も多数あり、真摯な学生の姿勢には大いに感動した。大変有意義な充実した時であった。将来、医療関係の仕事に就く学生も居る予感がした。

その後、『1918 年に新渡戸稲造(1862-1933)が初代学長に就任した東京女子大学』の理事会に赴いた。教育の原点回帰『人生の出会い』である。

帰宅したら、筆者の【がん病理学者が読む聖書『ヨブ記』 ～ なぜ、こんな目に あわなければ ならないのか ～】(2023 年 10 月 15 日 いのちのことば社 発行) (画像)を読まれた方から【先生のヨブ記を読みながら、毎晩涙があふれてきます。素晴らしい本に感謝します！】との心温まる励ましのメールが届いた。涙無くして語れない！

1 月 19 日は、病理組織診断業務に赴く。『風貌を見て、心の状況まで読む』のが病理診断であり、顕微鏡観察は『風貌を診るがん哲学＝癌細胞の病理と人間社会の病理＝生物学と人間社会』の原点である。臨床医でない病理学者が『がん哲学外来』を創設出来た原点は、『病理学+社会学＝がん哲学』である。

【『がん病理学』は『がん』に関する学問で、『形態』、『起源』、『進展』などを追求する学問分野である。当然がん研究者だけのものでなく、一般社会の人々の為の学問でもある。『がん病理学者』が『がん』をどのように考えるかは、とても大切なことである。なぜなら『がん』に対する概念が世界観、人生観、ひいては日常の決断や行動をも時には決定するからである。『がん』の『起源』と『進展』を学ぶことは、ある意味では人生の意義と目的の『静思』へとも導くものと考え。これこそ、『がん病理学者の社会貢献』である。】

『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹を追求する』が『教育』でもあろう！

がん病理学者が読む
聖書「ヨブ記」

樋野興夫

順天堂大学名誉教授

Hino
Okio

なぜ、こんな目に
あわなければ
ならないのか

思いがけないことが起こった時、
あなたはどうしますか？

がん哲学外来で多くの患者と向き合ってきた著者による現代人の
重荷に寄り添うエッセイ。聖書「ヨブ記」を通して何千年もの間、
人類が直面してきた「問い」を考える。

Forest●Books 定価(本体1,600円+税)